

読み書きをもっと重視すべき。 そこから、真の英語力は磨かれていきます。

1945年の設立以来、表面的な英会話力に留まらない、内容のある大人の英語コミュニケーション能力を習得できると評判のスクールが日米会話学院です。同学院の学院長を務める大井先生と、フルブライト委員会の前事務局長で現在、全米日米協会連合理事長のシェパードさんに、日本人の英語力とその上達法について語り合っていました。

英会話力=真の英語コミュニケーション能力にあらず

大井: 本日は、日本人の英語学習に造詣が深いシェパードさんと、日本人に必要な真の英語力とその学習法についてお話ししたいと思います。まずは、シェパードさんご自身に簡単な自己紹介をしていただきましょう。

シェパード: 私は子どもの頃、日本で育ったこともあり、大井先生同様、長く通訳や英語教育に関連する仕事に携わってきました。そうした経験を踏まえ、3年前まで日米教育委員会いわゆるフルブライト委員会の事務局長を10年務め、現在は日米両国間の友好関係を促進していく活動を展開する「全米日米協会連合」の理事長を務めています。ワシントンDCにあるこの団体は、日本とアメリカにおよそ40ある日米協会を束ねる存在で、日米間の関係改善のための各種交流プログラムなど様々な活動を展開しています。

大井: 日米の橋渡し役として活躍されているわけですね。私が今回、最初にシェパードさんにお聞きしたいのは、日本人の英語力が外国人の皆さんからどう見られている



かです。実は、私が最近耳にしたところによると、国連などの国際機関で働く日本人の数が減少しており、その理由が英語力不足にあるのではということなのです。

シェパード: 私が見るところ、日本人の英語力は向上していると思います。しかし、その力はスピーキングとリスニングに偏っているようです。私が考える英語力には読み書きも入っています。リーディングとライティングも身につけてこそ、真の英語コミュニケーション能力なのです。

大井: なるほど。例えば、海外旅行へ出かけてショッピングに不自由しない程度の英語力で十分な人であれば、英会話学習のみでも事足りるかもしれません。しかし、ビジネスや学問などで本格的に英語を駆使しなければならない場合、それでは不十分ということですね。

シェパード: 少しきつい言い方をすると、みんなが英語を習っているから、自分もやるという方も少なくないのが実情でしょう。多くの日本人が楽しく英語を学ぶという意味ではよいことなのですが、自分の考えを、本格的な英語で発言できるようになるまでもっていきたいと思うならば、見直しが必要です。あくまでも言葉というものは「道具」ですから、何かを言いたい、コミュニケーションしたいと思うなら、その言葉を使いこなせるスキルを身につけないといけません。大事なことは、まず何のために英語を使いたいかを明確にすること。英語を目的とするのではなく、何か自発的



全米日米協会連合理事長 サミュエル・M・シェパードさん
元日米教育委員会フルブライト委員会事務局長

な目的のための手段として英語学習を行うのであれば、真の英語力は習得できません。

大井: そのためには、話すことだけでなく、昔の勉強法のように、読むことをもっと行うべきではないかと思います。

シェパード: 同感です。英語でコミュニケーションしたいと考えるなら、むしろ読書を重視しましょう。語学の習得に一番大切なことは、継続的に触れることです。継続的に触れるためには、まず読むことです。読むことで単語も覚えられ、言葉の構造に触れることができます。読むことこそ、

最も基本的で徹底して学べる第一の方法なのです。

大井: 私は声を出して読むことをすすめているんですよ。「音読」することで、頭に英語のリズムが蓄積され、やがて英語の発信力に育っていくと考えるからです。

シェパード: それはよい学習法ですね。私はよく英語学習には、2つの読み方が必要であるという話をします。割と簡単に読める書物と、チャレンジしなければいけない書物、両方の読書を継続して行うことが大事。「音読」にもおすすめです。

英語学習に近道はない。だからこそ、正しく学ぶことが大切

大井: 例えば、企業のトップや大学の研究者などでも、英語で話すとなると途端に自分の教養のレベルよりもダウングレードした英語でしか話せないことがあります。その状況から脱出するためには、大人の英語に触れることも必要ですね。例えば、英語による講演会などへ行くと、その講演者は自分の教養レベルに合った格調の高い英語で話します。日本人が本物の英語を身につけるためには、そうした場に足を運んだり、通訳のように「和文英訳」を繰り返すトレーニングをすすめています。

シェパード: 格調高い、大人の英語を習得するには、英語の本を読む、映画を観る、音楽を聴く、英語で話す…そういうシチュエーションを増やすしかありません。英語学習にマジックツールはありません。簡単な方法など、ないのです。

大井: その通りですね。近道はない。しかし、継続してリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングそして文法を学んでいけば、着実に真の英語コミュニケーション能力は習得できます。日米会話学院では、これからも日常的な英会話能力の養成に留まらない、正統な英語教育を行っていきます。もちろん、学ぶ人のレベルに応じた個々のスキルアップにも対応する学習プログラムも

十分に用意しています。

シェパード: そうした意味で、日米会話学院は最も実績と信頼のある英語学校の一つですよ。

大井: ありがとうございます。シェパードさんも、これからはますます日米間の橋渡し役として活躍ください。今日は、ほんとうにありがとうございました。



「日米会話学院」学院長 大井孝さん
東京学芸大学名誉教授、財団法人国際教育振興会理事長

日米会話学院 1945年設立

英会話学習からプロ通訳者・翻訳者養成まで

日本語研修所 1967年設立

初級日本語からビジネスプレゼンまで

国際交流事業

●外国人による日本語弁論大会 (NHKで放送) ●日米学生会議 他

財団法人 国際教育振興会

www.nichibei.ac.jp TEL03-3359-9621 info@nichibei.ac.jp

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14 新陽ビル (JR飯田橋駅東口より徒歩4分) 四谷校舎改築のため移転中 (2008/3まで)